



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

千葉県 大多喜町立大多喜中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー/ジャンプ) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月6日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年A組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



- 自己紹介の後、運動の時間は、自身がオリンピックに出場したことで学んだことやオリンピックの大切さを、皆と体を動かしながら伝えていきたい。
- オリンピックバリューについて、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの言葉を紹介。その言葉を頭の片隅に置き取り組んでほしいと授業の目的を伝える。
- 準備体操後、各自それぞれが体育館のラインの上を歩き、制限時間内に決められた順番で一列に並び「ライン移動ゲーム」を3回実施。

○主運動等



- 主運動は、滑走リレーを実施(全3回)。5班に分かれ、片足にモップシューズを履いて走り、リレーで順位を競う。途中作戦タイムを設け、走る順番や滑り方を話し合う。スピードを出すコツは、前傾姿勢を取り膝より上体を前に出すことで重心が前に移りスピードが出る。自身が取り組んでいたジャンプ競技と同じだと話す。2回目以降はモップシューズを履く足を替える等ルールを変更し、順位にポイントを加え、最終順位を発表。



- 運動の時間を振り返り、主運動で行った滑走リレーでは、最初は上手くできなかったかもしれないが、皆と協力して作戦を考えたことで上手く滑れるようになったり、お互いが他のチームを応援することで頑張る気持ちになれたことはとても大切だ。座学の時間は、運動の時間に感じたことを思い出しながら、自分自身のオリンピックバリューについて考える時間にしてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー/ジャンプ) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月6日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年A組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●ソチ2014冬季大会にスキー/ジャンプ競技で出場したと自己紹介。運動の時間に感じたオリンピックバリューについて、更に深く考えていこうと、授業の目的を確認。オリンピックシンボルの由来について説明した後、映像を見ながら競技の説明と、自身の競技人生の良かったときと悪かったときの経験を話し、大きな怪我をした後も諦めずに目標に向かって練習に打ち込んだこと、仲間との友情、支えてくれた家族への感謝等、すべてがオリンピックバリューに結び付く。グループワークの際は、相手の話をよく聞き、どんな意見も受け入れてほしいと話し、まずは個人で考える時間を設けた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分自身のオリンピックバリューはどんなことかを考えよう。

発表：エクセレンス：「試合に勝つために基礎練習を頑張る」「習い事を頑張る」「部活、勉強、学校行事のすべてを頑張る」等

フレンドシップ：「友達同士お互いに励まし合う」「部活や行事で仲間と協力し合う」「意見を出し合う」等

リスペクト：「協力してくれる全ての人、仲間、家族に感謝する」「落ち込んでいるときに励ましてくれる仲間感謝する」等



●オリンピックバリューは、一生懸命努力する、仲間と協力する、相手を思いやること等であり、皆の身近に存在する。そして皆は日頃からすでに実践している。オリンピックに出た選手だけがオリンピックバリューを持っているわけではない。これからの長い人生の中で、今日学んだことを忘れずに、皆で過ごした運動の時間や座学の時間を大切に、これからも夢や目標を描きながら良い中学校生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー/ジャンプ) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月6日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年B組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



●自己紹介の後、オリンピックバリューについて説明。エクセレンス:「一生懸命頑張る」、フレンドシップ:「友達との友情」、リスペクト:「感謝」と説明し、運動の時間は体を動かしながらオリンピックバリューの価値を学んでほしいと話す。準備体操では声を掛け合いながら、屈伸、伸脚、体側伸ばし等を皆で実施。

○主運動 等



●準備体操後、各自それぞれが体育館のライン上を歩き、制限時間内に決められた順番で一列に並び「ライン移動ゲーム」を3回実施。他の人とぶつからないように、進むラインを選びながら歩くように伝える。
●主運動は、滑走リレーを実施(全3回)。5班に分かれ、片足にモップシューズを履いて走り、リレーで順位を競う。途中作戦タイムを設け、走る順番や滑り方を話し合う。スピードを出すコツは、前傾姿勢を取り膝より上体を前に出すことで重心が前に移りスピードが出る。自身が取り組んでいたジャンプ競技と同じだと話す。2回目以降はモップシューズを履く足を替える等ルールを変更し、順位にポイントを加え、最終順位を発表。



●スキーのジャンプ競技は、2本飛んでその合計点で順位を競う。1回目失敗しても2回目にチャンスがある。その間に気持ちを入れ替えたり、コーチと相談することもある。皆も途中の作戦タイムで仲間と協力したことで上手く滑れるようになった。オリンピック競技と皆が実施した滑走リレーには共通点がある。座学の時間は、運動の時間で感じたことをオリンピックバリューに繋げ、皆にとつてのオリンピックバリューを考えてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 山田 優梨菜 先生 (スキー/ジャンプ) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年9月6日(火)

■ **ク ラ ス** : 2年B組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●ソチ2014冬季大会にスキー/ジャンプ競技で出場したと自己紹介。運動の時間に感じたオリンピックバリューについて、更に深く考えていこうと、授業の目的を確認。オリンピックシンボルの由来について説明した後、映像を見ながら競技の説明と、自身の競技人生の良かったときと悪かったときの経験を話し、大きな怪我をした後も諦めずに目標に向かって練習に打ち込んだこと、仲間との友情、支えてくれた家族への感謝等、すべてがオリンピックバリューに結び付く。グループワークの際は、相手の話をよく聞き、どんな意見も受け入れてほしいと話し、まずは個人で考える時間を設けた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分自身のオリンピックバリューはどんなことかを考えよう。

発表：エクセレンス：「大会に向けて努力する」「最後まで諦めない」「部活と勉強を頑張る」等

フレンドシップ：「体育祭で皆と協力する」「皆で支え合う」「困ったとき、悩んだときは協力し、話し合う」等

リスペクト：「大会で勝つためにルールを守る」「家族や仲間へ感謝する」等



●座学の時間を振り返り、オリンピックバリューはオリンピックに出た選手だけのものではなく、皆にとってもこれからの人生の経験の中で必ず生きていくと思う。オリンピックバリューを意識することでより良い人生になり、また人生が開ける。日頃からオリンピックバリューにある、思いや周りの人に対する感謝の気持ちを忘れずに、大きな夢に向かって歩いてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■ 記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■ 修了証贈呈

